

# 令和6年度 学校経営計画・学校評価

4月4日提出

10月3日提出

3月14日提出

学校番号	8	山田	高等学校	課程	定
------	---	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	① 予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ② 多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③ 生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④ 各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 学習と仕事の両立をやり遂げようとする意欲を有する生徒 ○ 本校で学習したいという意思が強く、将来の目標や夢に向かってチャレンジする意欲を持っている生徒 ○ 単位制高校の特色を理解し、個性や能力を伸ばし、進路を切り拓こうとする生徒		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 4年間、少人数でじっくり基礎から学べるカリキュラムを設定しています。 ○ 定通併修制度等による三修制(3年間で卒業するコース)を選択できます。 ○ 単位制を生かした柔軟な学習システムを構築しています。 ○ 商業科目等を配置し、実社会に役立つ各種資格取得・検定合格を目指します。 ○ 探究の成果を校外で主体的に実践・発表します。
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 基礎学力の定着を図り、進路実現につながる確かな学力を育成します。 ○ 主体的に学び、課題を見つけて探究する力を育成します。 ○ 社会人として必要な規範意識やコミュニケーション能力を育成します。 ○ 望ましい人間関係がつかれる、心豊かな人間力を育成します。 ○ 地域を大切に、地域に貢献できる能力を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 A 】
卒業式での生徒たちの表情がとても良かった。学年を追うごとに学習意欲が少しずつ表れていることはよいことであるし、多様な生徒たちに対して、それぞれに合った継続的な学習支援ができています。	
【社会性の育成】	評価 【 A 】
学校で会った際に、あいさつがきちんとできている。学校が、教育活動を通して、社会性を身に付けさせている。学校側がアルバイトを奨励しなくても、生徒たちが自分からやりたいと思える日までじっくり待ってあげることも主体性の育成へとつながるのではないだろうか。	
【チーム学校】	評価 【 A 】
多様な背景を抱えた生徒に対して、授業や学校生活において教職員と関係機関が情報共有をし、支援を行っている。特別支援教育や不祥事防止の研修も実施しており、チームとして生徒たちに対応している。	

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	①成績優秀者(平均評定3.5以上)を50%以上にする。(R5:61.9%) ①基礎力診断テスト2年次生のD3層を60%以下にする。(R5:1年次生D3層80.0%) ②「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」生徒の割合を100%にする。(R5:80.0%) (高知県オリジナルアンケート 6月、11月2回実施) ③教務・進路補習の出席率を100%にする。 ③各種検定などの合格者の割合を50%以上にする。(R5:37.5%)	①分かる授業の実施 ・タブレット等、ICTを活用した授業の実施 ・基礎力診断テスト・課題テストの分析による学力把握と対策 ・学習内容の精選、自作プリント等の作成と活用 ・小テストや反復練習によるスモールステップの学習の実施 ②アクティブ・ラーニングを活用した授業を単元に1回以上実施 ③多様な学力をもつ生徒への教務・進路補習の実施 ③各種検定取得に向けての指導	B	①成績優秀者(平均評定3.5以上):44.8%(1学期末) ②「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」生徒の割合:79.2%(高知県オリジナルアンケート6月実施) ③教務補習出席率:60%・進路補習の出席率:100%(夏期休業中) ③各種検定などの合格者の割合:未受験(1学期末)	①分かる授業の実施 ・タブレット等、ICTを活用した授業の充実 ・課題テスト(9月)、基礎力診断テスト実施による学力把握と対策 ・学習支援員の配置 ②アクティブ・ラーニング講座の実施 ③2・3学期の教務・進路補習の実施 ③各種検定取得に向けての指導	B	①学年末成績優秀者(平均評定3.5以上):50%(R5:61.9%)【達成】 ①基礎力診断テスト2年次生のD3層:40.0%1年次生のD3層:57.1%(受験者のみ)(R5:66.7%)【達成】 ②「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」生徒の割合:79.2%(R5:80.0%) (高知県オリジナルアンケート11月実施)【未達成】 ③教務補習(7月、12月)の出席率:40% 進路補習の出席率:67.0%【未達成】 ④2年次生から4年次生の各種検定合格者数の割合:商業87.5%、国語0%(R5:37.5%)【未達成】	・中学校時に不登校であった生徒が多く、基礎学力の定着もさることながら、学習習慣が身につけていない生徒が大半であるため、家庭学習時間の増加を目標としたい。 ・ユニバーサルデザインの授業づくり。 ・商業科目を主として、資格取得に力を入れていきたい。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	①「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」生徒の割合を70%以上にする。(R5:70.0%) (高知県オリジナルアンケート 6月、11月2回実施) ②「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」生徒の割合を70%以上にする。(R5:60.0%) (高知県オリジナルアンケート 6月、11月2回実施) ②進路未決定で卒業する生徒数を0にする。(R5:0) ③アルバイト等何らかの仕事をしながら定時制で学ぶ生徒の割合を60%以上にする。(R5:54.5%) ③年に1回以上ボランティア活動に参加する。(R5:全員参加)	①「生活体験発表会」と「アクティブ・ラーニング講座」の実施(自己理解や他者理解を深める) ②キャリア教育の充実 ・キャリアノートの活用 ・各種講演会等の実施 ③働きながら学ぶ生徒への支援 ・仕事と学校との両立に向けハローワークと連携した就職活動の推進 ③ボランティア・地域貢献活動を推進	B	①「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」生徒の割合:91.7%(高知県オリジナルアンケート6月実施) ②「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」生徒の割合:90.8%(高知県オリジナルアンケート6月実施) ③アルバイト等何らかの仕事をしながら定時制で学ぶ生徒の割合:27.5%	①LH等を通して自己理解や他者理解を深め、コミュニケーション能力を育成する。 ②各種講演会等のキャリア教育の充実 ③仕事と学校との両立に向けハローワークと連携した就職活動の推進 ③ボランティア・地域貢献活動を推進	①「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」生徒の割合:86.7%(高知県オリジナルアンケート11月実施)【達成】 ②「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」生徒の割合:78.1%(R5:60.0%) (高知県オリジナルアンケート11月実施)【達成】 ②進路未決定で卒業する生徒数:2名(R5:0)【未達成】 ③アルバイト等何らかの仕事をしながら定時制で学ぶ生徒の割合(1月末):32.1%(R5:54.5%)【未達成】 ④年に1回以上ボランティア活動に参加:70.3%(R5:90.4%)【達成】	・行事等への参加者が少ない。 ・次年度は行事への出席率を上げる工夫と目標設定をしたい。	
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	「地域や社会をよくするため実際に行動している」生徒の割合を30%以上にする。(R5:25%) (高知県オリジナルアンケート6月、11月2回実施)	・地域貢献活動やボランティア活動への参加機会を多くつくる。 ・「総合的な探究の時間」の探究テーマに地域課題を設定する。	A	「地域や社会をよくするため実際に行動している」生徒の割合:32.5%(高知県オリジナルアンケート6月実施)	・学校行事を活用して、地域貢献活動やボランティア活動を行う。 ・総合的な探究で設定したテーマである地域課題を深く掘下げる。	A	「地域や社会をよくするため実際に行動している」生徒の割合:37.7%(高知県オリジナルアンケート11月実施)【達成】	・学校行事に地域貢献活動を組み込んでいるが、生徒たちが認識しないまま取り組んでいるので、しっかり周知をしたい。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	・各教科において言語活動や情報活用能力の育成を意識した授業を学期に2回以上設定する。 ・公開授業週間に年間1回以上参観する。 ・総合的な探究の時間において、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けた探究活動をしている割合を50%以上にする。	・教員間の相互授業参観の充実 ・教科研究会等への参加 ・総合的な探究の時間担当教員間の情報共有 ・各教科の授業や「総合的な探究の時間」の中で、SDGsに関する簡単な内容に触れる機会を設定	B	総合的な探究の時間において、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けた探究活動をしている割合:34.5%	・教員間の相互授業参観の充実 ・教科研究会等の研修内容の共有 ・総合的な探究の時間担当教員間の情報共有 ・各教科の授業や「総合的な探究の時間」で設定した地域課題をSDGsに当てはめ考え、探究学習へつなげる。	B	総合的な探究の時間において、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けた探究活動をしている割合:34.5%	・総合的な探究の時間のブラッシュアップを図る。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○多様な生徒への支援体制の充実 ○地域との連携	・中途退学者を0にする。(R5:2人) ・公開授業の参観者を10人以上にする。(R5:9人) ・学校HPを月1回以上更新する。	・教育振興会における情報発信 ・中高連絡会での情報発信 ・地元中学校や関係機関との連携強化 ・保護者及び地域の方の授業参観の促進	A	・中途退学者:0名(1学期末) ・学校HP:行事の際に更新	・地元中学校との連携強化のための中高連絡会(11月) ・オープンスクールの実施(11月)	A	・中途退学者:3名 ・オープンスクールの実施(参観者5名) ・学校HP:行事の際に更新	・広報活動の推進。 ・オープンスクールの改善充実。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	・生徒指導等に課題を感じている教員がいる。 ・校内研修を学期に1回以上実施する。 ・不祥事防止委員会を年3回以上実施する。	・挨拶の励行 ・不祥事防止に関する情報の共有 ・面談時での状況把握と積極的声掛け	A	・校内研修の実施【特別支援教育・不祥事防止】(全定合同)	・挨拶の励行 ・職員間でのコミュニケーションを図る ・不祥事防止研修の実施 ・不祥事の事例等の情報の共有 ・面談時での状況把握と積極的声掛け	A	・生徒の現状の情報共有を頻繁に実施 ・不祥事等の案件発生の際には、連絡会で校長もしくは副校長から報告と訓示を実施 ・校内研修の実施【特別支援教育は年2回・不祥事防止は年3回】	・連絡会等の活用。 ・研修会の充実。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○業務の効率化を図る ○風通しのよい職場環境づくりをする	・時間外の長時間労働の教員を0にする。(1ヵ月45時間、年間360時間を厳守する。)(R5:0) ・業務分担を適切に行う。	・職員室でのコミュニケーションの充実 ・ICTの活用による業務削減 ・1日2回の連絡会や職員会等で情報共有 ・職員同士での互いに声かけやフォロー ・学校行事の精選や業務の適正化	B	・時間外の長時間労働の教員:2名(8月末)	・職員室でのコミュニケーションの充実、情報共有 ・ICTの活用による業務削減 ・連絡会や職員会等で情報共有 ・職員同士での声かけやフォロー ・学校行事の精選や業務の適正化	A	・1ヶ月45時間を超えた者:2ヶ月1名、3ヶ月1名 ・年間360時間を超えた者:1名	・業務の整理と見直し。